



業績目録(鈴木美津子)

著者	東北大学史料館
雑誌名	東北大学定年退職教員業績目録
号	2012-34
発行年	2013-03
URL	http://hdl.handle.net/10097/56612

東北大学定年退職教員業績目録第 2012－34 号

鈴木 美津子 教授 業績目録

平成25年3月
東北大学史料館

言語応用論講座

鈴木 美津子

SUZUKI Mitsuko	教授	生年月日	1948年7月22日
大学院国際文化研究科 国際文化言語論専攻 言語応用論講座			
出身学校	東北大学・文学部・文学科 英文学専攻	1971年	卒業
出身大学院	東北大学・文学研究科・英文学英語学言語学専攻 修士課程	1973年	修了
取得学位	博士（文学） 東北大学	2003年	
略歴	1973年—1977年 宮城学院女子大学 一般教育科 研究助手，専任講師 1977年—1989年 宇部短期大学文学科 講師、助教授 1989年—1993年 山口大学教養部 助教授 1993年—1996年 山口大学教養部 教授 1996年—1998年 山口大学経済学部 教授 1998年—1999年 大阪女子大学学芸学部 教授 1999年—2003年 大阪女子大学人文社会学部 教授 2003年—現在 東北大学大学院国際文化研究科 教授		
所属学会	日本英文学会，日本ジョンソン協会，イギリス・ロマン派学会，日本ブロンテ協会，日本ギヤスケル協会，日本18世紀学会，北米ジェイン・オースティン協会，英国ジェイン・オースティン協会，英国ギヤスケル協会，英国ブロンテ協会，日本ヴィクトリア朝文化協会，日本比較文学会		
学会活動	『試論』英文学会 編集委員	2001年 - 2011年	
	日本ジョンソン協会論集委員会 委員	2003年 - 2006年	
	日本英文学会大会準備委員 委員長（平成17年～18年）	2003年 - 2006年	
	日本ジョンソン協会論集委員会 代表	2007年 - 2010年	
	日本オースティン協会 編集委員 委員	2007年 - 現在	
	日本ギヤスケル協会編集委員会 委員	2009年 - 現在	
	日本英文学会東北支部編集委員会 編集委員	2010年 - 2012年	
	日本ブロンテ協会 評議員	2011年 - 現在	
専門分野	ヨーロッパ語系文学		
研究課題	・ ロマン主義時代の英国小説 ・ ロマン主義時代の英国小説に与えたジャン＝ジャック・ルソーの影響 ・ ロマン主義時代の歴史小説構築への女性作家の貢献 ・ ロマン主義時代に於ける国民小説の誕生とその変容		
研究キーワード	ロマン主義時代の女性作家，国民小説， 歴史小説， 政治小説， フランス革命		
学外の社会活動	東北大学大学院国際文化研究科主催 第14回公開講座（公開講座）	2007年11月 - 2007年11月	
学内活動	国際文化研究科広報委員会委員長	2004年4月 - 2005年3月	
	国際文化研究科副研究科長	2004年10月 - 2005年3月	
	学寮専門委員会委員長	2008年1月 - 2008年7月	
	国際文化研究科論集委員会委員長	2009年4月 - 2010年3月	
学位授与数			
博士	1人		
修士	4人		
学士	0人		

法務博士（専門職）	0人
修士（専門職）	0人
短期大学士	0人
準学士	0人
専門士	0人
論文博士	1人

担当授業科目

（全学教育）

展開英語 1	2003年 - 2008年
実践英語 IA	2003年 - 2009年
展開英語 II	2003年 - 2009年
実践英語 1B	2003年 - 2010年
基礎ゼミ（フランケンシュタインを読む）	2005年 - 2005年
英語 A1	2009年 - 現在
英語 A2	2009年 - 現在
英語 B1	2009年 - 現在
英語 B2	2009年 - 現在
英語 C1	2010年 - 現在
英語 C2	2011年 - 現在

（大学院教育）

言語応用論総合演習 A	2007年 - 現在
言語応用論特論 A	2007年 - 現在
言語文化モード論 I・II	2007年 - 現在
特別研究（言語応用論）A	2007年 - 現在
特別演習 A（言語応用論）	2007年 - 現在
言語応用論総合演習 B	2007年 - 現在
言語応用論特論 B	2007年 - 現在
特別研究 B（言語応用論）	2007年 - 現在
特別演習 B（言語応用論）	2007年 - 現在

（他大学）

言語思想論	2005年 - 2005年
英米文学・文化特殊講義	2011年 - 2011年
言語思想論	2011年 - 2011年

国内会議 発表・講演

- ジェイン・オースティンの「感傷小説」[東北英文学会第29回大会]
（1974年10月5日 -- 1974年10月5日）口頭（一般）
- ジェイン・オースティンのノンセンス [東北英文学会第30回大会]
（1975年10月4日 -- 1975年10月4日）口頭（一般）
- ジェイン・オースティンの教育小説 [日本英文学会中四国支部第32回大会]
（1979年10月20日 -- 1979年10月20日）口頭（一般）
- Bath における中心と周縁 [日本英文学会第54回大会]
（1982年5月16日 -- 1982年5月16日）口頭（一般）
- 『高慢と偏見』における衣装描写 [日本英文学会中四国支部第38回大会]
（1985年10月25日 -- 1985年10月25日）口頭（一般）
- Emma と流行 [日本英文学会第58回大会]
（1986年5月18日 -- 1986年5月18日）口頭（一般）
- シャーロット・ブロンテと縫い物 [日本ブロンテ協会第5回大会]
（1989年10月14日 -- 1989年10月14日）口頭（一般）
- Persuasion における二つの物語 [日本英文学会第63回大会]
（1991年5月19日 -- 1991年5月19日）口頭（一般）
- Northanger Abbey と「国政」 [日本ジョンソン協会第25回大会]
（1992年5月25日 -- 1992年5月25日）シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）
- Belinda における思想の戦い [日本英文学会第67回大会]
（1995年5月21日 -- 1995年5月21日）口頭（一般）
- ルソー的女子教育の欠陥 [日本ギaskell協会第7回大会]
（1995年10月15日 -- 1995年10月15日）口頭（一般）
- 「感傷小説」の知的枠組みとしての『新エロイズ』 [日本英文学会第68回大会]
（1996年5月25日 -- 1996年5月25日）シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）

- ペチコートをはいたハイエナか、ひたむきな女権論者か？ [日本ジョンソン協会第 29 回大会]
 (1996年5月27日 -- 1996年5月27日) シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名)
- 結婚しないで幸福に暮らしました Sarah Scott の Mellenium Hall [日本英文学会中部支部第 49 回大会]
 (1997年10月12日 -- 1997年10月12日) シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名)
- 『現代の哲学者の思い出』における小説ジャンルの混在 [日本英文学会第 70 回大会]
 (1998年5月24日 -- 1998年5月24日) 口頭 (一般)
- 労働者階級の表象 同時代の社会問題小説と比較して [日本ギaskell協会第 14 回大会]
 (2002年10月6日 -- 2002年10月6日) シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名)
- エジェ先生からの贈り物 Villette における Paul et Virginie の意味 [日本ブロンテ協会 2003 年大会]
 (2003年10月11日 -- 2003年10月11日) シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名)
- Sydney Owenson はいかにアイルランドを表象するか [日本英文学会第 76 回大会]
 (2004年5月22日 -- 2004年5月22日) シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名)
- 異文化体験の旅 Sydney Owenson の構築した国民小説、地域小説の枠組み [日本ジョンソン協会第 39 回大会]
 (2006年5月22日 -- 2006年5月22日) シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名)
- イングランドの読者と国民小説の誕生 Sydney Owenson の The Wild Irish Girl に潜む戦略 [イギリス・ロマン派学会第 32 回全国大会]
 (2006年9月23日 -- 2006年9月23日, 鳥取市) シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名)
- 仕事に生きる女性達 小説家と家庭教師 [盛岡大学英語英米文学会秋季講演会]
 (2006年10月26日 -- 2006年10月26日) 口頭 (招待・特別)
- 社会規範から逸脱した女の行方 排除・矯正か、称賛・擁護か？ [東北英文学会第 62 回大会]
 (2007年11月18日 -- 2007年11月18日, 山形市) シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名)
- 『新エロイズ』をめぐる英国作家の攻防 [日本比較文学会東北支部第 6 回比較文学研究会]
 (2008年7月26日 -- 2008年7月26日) シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名)
- ロマン主義時代の歴史小説と『北と南』 [日本ギaskell協会第 21 回大会]
 (2009年10月4日 -- 2009年10月4日, 東京) シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名)
- 奢侈、放縦、享楽 摂政時代の申し子 [日本オースティン協会第 4 回大会]
 (2010年7月3日 -- 2010年7月3日, 名古屋市) シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名)
- シャーロット・ブロンテとロマン主義時代の歴史小説・国民小説 『ヴィレット』に見られる枠組みの変容 [日本ブロンテ協会 2010 年大会]
 (2010年10月16日 -- 2010年10月16日) 口頭 (招待・特別)

その他研究活動

- 宇田和子、『嵐が丘』におけるフラクタル (書評) 1990年 - 1990年
- John Carey, The Intellectuals and Masses, Pride and Prejudice among the Literary Intelligentsia, 1880-1839 (書評) 1995年 - 1995年
- Elizabeth A. Bohls, Women Travel Writers and the Language of Aesthetics, 1716-1818 (書評) 1997年 - 1997年
- Claudia L. Johnson, Equivocal Beings: Politics, Gender, and Sentimentality in the 1790s (書評) 1997年 - 1997年
- 共訳 ジェイ・ルービン著『風俗壊乱 文学者と明治国家』(その他) 2000年 - 2010年
- 『ロンドン事典』項目執筆 (その他) 2001年 - 2002年
- Harry E. Shaw, Narrating Reality: Austen, Scott, Eliot (書評) 2001年 - 2001年
- 松本啓 著『イギリス小説の知的背景』(書評) 2006年 - 2006年
- 米本弘一 著『フィクションとしての歴史 ウォルター・スコットの語りの技法』(書評) 2007年 - 2007年
- 翻訳 エリザベス・ギaskell著、『ランカシャーの教訓』(その他) 2008年 - 2008年
- 十八世紀女性作家研究会編『長い十八世紀の女性作家たち アフラ・ベインからマライア・エッジワースまで』(書評) 2010年 - 2010年
- 植松みどり著『ジェイン・オースティンと「お嬢さまヒロイン」』(書評) 2012年 - 2012年
- 川津雅江著『サッポータちの十八世紀 近代イギリスにおける女性・ジェンダー・セクシュアリティ』(書評) 2013年 - 2013年

科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)

- 基盤研究 (C)
 [ロマン主義時代の英国小説に対するジャン＝ジャック・ルソーの影響] 1997年4月 - 1999年3月
- 基盤研究 (C)
 [ロマン主義時代の英国小説に対するエドモンド・バークの影響] 2000年4月 - 2003年3月
- 基盤研究 (C)
 [ロマン主義時代の英国小説に描かれた女権論者メアリ・ウルストンクラフト] 2003年4月 - 2007年3月

基盤研究 (C) [ロマン主義時代の歴史小説構築への女性作家の寄与・貢献]	2007年4月 - 2010年3月
基盤研究 (B) [ロマン主義時代の旅行記とその歴史的背景～国家意識・国民意識の変容を中心にして]	2008年4月 - 現在
基盤研究 (C) [ロマン主義時代における国民小説の誕生とその変容]	2011年4月 - 現在
その他の競争資金獲得実績 研究科長裁量経費 [18世紀ヨーロッパおよび東アジアにおける「中東」表象]	2005年4月 - 2006年3月
研究科長裁量経費 [近代成立期における「中東」表象]	2007年4月 - 2008年3月

著書

- 『ジェイン・オースティンとその時代』（執筆担当部分）全 330 頁. [成美堂, (1995) 1 月]
鈴木美津子
- ルソーを読む英国作家たちー『新エロイズ』をめぐる思想の戦い（執筆担当部分）全 315 頁. [国書刊行会, (2002) 7 月]
鈴木美津子
- 『読者の台頭と文学者』（執筆担当部分）第 3 章 99 頁～146 頁. [世界思想社, (2008) 4 月]
鈴木美津子、清水一嘉、小林英美、園田暁子

研究論文

- ジェイン・オースティンの感傷小説. [『宮城学院女子大学文化学会研究論文集』, (44), (1975), 37-50]
鈴木美津子
- ジェイン・オースティンのノンセンス. [『宮城学院女子大学文化学会研究論文集』, (45), (1976), 43-60]
鈴木美津子
- アイリス・マードックとゴシシズム. [『宇部短期大学学術報告』, (14), (1978), 37-47]
鈴木美津子
- 『スーザン令夫人』は何を語るかージェイン・オースティンとサディズム. [『宇部短期大学学術報告』, (15), (1979), 21-30]
鈴木美津子
- ジェイン・オースティンの教育小説ー『マンスフィールド・パーク』とルソーの『エミール』. [『宇部短期大学学術報告』, (16), (1980), 13-25]
鈴木美津子
- マーガレット・ドラブルの「教養小説」ー『黄金のイエエルサレム』の一考察. [『宇部短期大学学術報告』, (17), (1981), 25-33]
鈴木美津子
- Bath における中心と周縁-Northanger Abbey の都市論的考察. [『英文学試論』, (1983), 220-34]
鈴木美津子
- Mary Wollstonecraft の影のもとにー Pride and Prejudice と The Rights of Woman. [The Wistaria, (14), (1984), 18-31]
鈴木美津子

- 9) 『高慢と偏見』における衣装描写. [宇部短期大学学術報告, (23), (1986), 155-61]
鈴木美津子
- 10) Emma と「流行」. [『英文学研究』, 64 (2), (1988)]
鈴木美津子
- 11) 『シャーリー』に対する書評家の影響. [The Wistaria, (19), (1989), 22-39]
鈴木美津子
- 12) シャーロット・ブロンテの作品における縫い物の意味と機能. [山口大学「英語と英米文学」, 24, (1989), 145-161]
鈴木美津子
- 13) Persuasion における二つの物語. [『英文学研究』, 69 (1), (1992)]
鈴木 美津子
- 14) Northanger Abbey と「国政」. [山口大学「英語と英米文学」, 27, (1992), 135-148]
鈴木美津子
- 15) Julie, a Wanton Baggage or a Paragon of Virtue?: Julie, ou la Nouvelle Heloise and Intertextuality. [東北大学『試論』, 32, (1993), 31-46]
鈴木美津子
- 16) ルソー的女子教育の欠陥―― Helen と Wives and Daughters. [山口大学「英語と英米文学」, 30, (1995), 227-237]
鈴木美津子
- 17) 英国の庭に現れた蛇のジュリー――『リアノーラ』と『新エロイーズ』. [『十八世紀イギリス文学研究』(雄松堂), (1996)]
鈴木美津子
- 18) The Value and Violability of Promises in Sense and Sensibility. [Enlightened Groves: Essays in Honour of Professor Zenzo Suzuki, (1996), 377-91]
鈴木美津子
- 19) Belinda における思想の戦い. [『英文学研究』, 73 (2), (1997), 207-19]
鈴木美津子
- 20) ベチコートをはいたハイエナか、ひたむきな女権論者か? ――小説に描かれたメアリ・ウルストンクラフト. [『英国小説研究』, 18, (1997), 66-84]
鈴木美津子
- 21) 「感傷小説の知的枠組みとしての『新エロイーズ』」. [『Sentimental, Gothic, Romantic-18 世紀後半の英文学とエピステーメー』(英宝社), (1997), 3-30]
鈴木美津子
- 22) 「結婚しないで幸せに暮らしました」――『ミレニウム・ホール』に描かれた女性のユートピア. [大阪女子大学『女子大文学(外国文学編)』, 51, (1999), 27-38]
鈴木美津子
- 23) 『現代の哲学者の思い出』における小説のジャンルの混在. [『英国小説研究』, 19, (1999), 65-83]
鈴木美津子
- 24) 『秘密』における四つの歪められた物語――フェンウィックとルソー、ゲーテ、ラクロ. [大阪女子大学『女子大文学(英語学英米文学篇)』, 創刊, (2000), 35-52]
鈴木美津子
- 25) 父と夫の権威に逆らって――ジェイン・ウェストの『不信心な父親』. [『結婚・恋愛・友情――アフラ・ベーンからハリエット・マーティノーまで』(英宝社), (2000), 103-26]

鈴木美津子

- 26) 誘惑する家庭教師ーシドニー・オーエンソンのエドモンド・バーク批判. [大阪女子大学『女子大文学（英語学英米文学篇）』, 2, (2001), 81-98]

鈴木美津子

- 27) 崇高なる感受性に殉じてー『不誠実な友人』と「若い女性が世の中に出る」. [『英国小説研究』（英潮社）, 20, (2001), 63-82]

鈴木美津子

- 28) ジュリは浮気女か、美德の鑑かー『新エロイズ』とロマン主義時代の英国小説. [『英語青年』, 2月号, (2002), 17-21]

鈴木美津子

- 29) 『メアリ・バートン』における労働者階級の表象. [大阪女子大学『女子大文学（英語学英米文学篇）』, 4, (2003), 75-88]

鈴木美津子

- 30) 波、炎、怪物、蒸気ー『メアリ・バートン』における労働者階級の表象. [『ギヤスケル論集』, 13, (2003), 11-18]

鈴木美津子

- 31) ガチョウの雛鳥、キジ、七面鳥そしてレベッカのブディングー『マンズフィールド・パーク』における<食>の表象. [『<食>で読むイギリス小説』（ミネルヴァ書房）, (2004), 139-158]

鈴木美津子

- 32) 嵐と死を呼び寄せる船「ポールとヴィルジニー」号ー『ヴィレット』における引用の織物. [『シャーロット・ブロンテ 150年後の『ヴィレット』（彩流社）, (2005), 81-103]

鈴木美津子

- 33) メアリ・ウルストンクラフトを擁護する. [国際文化研究科論集, 13, (2005), 35-46]

鈴木美津子

- 34) シドニー・オーエンソンはいかにアイルランドを表象するか. [英国小説研究, 22, (2006), 25-52]

鈴木美津子

- 35) 「騎士道の時代は過ぎ去ったのか」？ エドモンド・バークに対する反応、反発、反駁. [日本ジョンソン協会年報, (31), (2007), 22-26]

鈴木美津子

- 36) 「『ハームスプロング』から学んだもの 文学的戯れと体制批判」. [『ジェイン・オースティンを学ぶ人のために』, (2007), 125-138]

鈴木美津子

- 37) 「異文化体験の旅」と「結婚による融合」 シドニー・オーエンソンの構築した国民小説、地域小説の枠組み. [『女性作家の小説サブジャンルへの貢献と挑戦 デイヴィス、ヘイウッド、エッジワース、オーエンソン』（英宝社）, (2008)]

鈴木美津子

- 38) アイルランドの併合を巡る言説 チャールズ・マチューリンの『アイルランドの族長』の場合. [『英国小説研究』, 第23冊, (2008), 81-102]

鈴木美津子

- 39) 『嵐が丘』とシドニー・オーウエンソン. [『佐野哲郎教授記念論文集 英語・英米文学のフォームとエッセンス』, (2009), 203-212]

鈴木美津子

- 40) 女性虐待 監禁、凍死、餓死、抑圧的な女子教育. [『ギヤスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化』, (2010), 329-346]

鈴木美津子

- 41) 『北と南』とロマン主義時代の歴史小説. [『エリザベス・ギaskellとイギリス文学の伝統』, (2010), 347-357]

鈴木美津子

- 42) シャーロット・ブロンテとロマン主義時代の歴史小説・国民小説 『ヴィレット』に見られる枠組みの変容. [『ブロンテ・スタディーズ』, 5 (3), (2011), 29-51]

鈴木美津子

- 43) シドニー・オーウェンソンの『宣教師』におけるインド表象. [『揺るぎなき信念 イギリス・ロマン主義論集』, (2012), 67-81]

鈴木美津子

- 44) イギリスの状況小説としての『エマ』 偽善と欺瞞、スパイ行為と裏切り. [『英国小説研究』, 24, (2012), 5-31]

鈴木美津子

総説・解説記事

- 1) シャーロット・ブロンテの衣装描写. [Brontë Newsletter of Japan, (10), (1989)]

鈴木美津子

- 2) Jane Austen 研究の動向. [『日本ジョhnson協会年報』, (15), (1991), 9-12]

鈴木美津子

- 3) 「文明としての田園」. [朝日新聞社『世界の文学：ヨーロッパ III』, (12), (1999), 36-39]

鈴木美津子

- 4) 研究の現在. [The Victorian Studies Society of Japan, (6), (2007)]

鈴木美津子

- 5) コリンズ氏. [研究社『英語青年』6月号, (2007)]

鈴木美津子

- 6) ロバート・ベイジとルーナー協会. [『学会ニュース』, (63), (2010)]

鈴木美津子

- 7) シャーロット・ブロンテとシドニー・オーウェンソン. [Brontë Newsletter of Japan, (83), (2011)]

鈴木美津子